

第3回 三浦市学校教育ビジョン地域協議会（南下浦地区）会議録

○日 時 令和2年11月27日（金） 19時00分～20時15分

○場 所 南下浦市民センター 講堂

○次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 審議事項

議 案 8 第2回三浦市学校教育ビジョン地域協議会（南下浦地区）会議録の承認について

(2) 報告事項

報告事項 2 三浦市学校教育ビジョンに対する提案書について

(3) 意見交換

意見交換 2 今後の協議会での検討事項について

3 事務連絡

4 閉 会

○出席委員（11名）

座長	市川 昌樹	座長職務代理者	五十嵐 徹	委員	鈴木 隆之
委員	君島 孝洋	委員	高橋 伸昌	委員	吉田 貴広
委員	木村 光一	委員	加藤 貴之	委員	松原 誠一
委員	武内 千恵子	委員	中澤 謙介		

○欠席委員（1名）

委員 宮坂 和彦

○事務局（5名）

君島 篤	教育部長	高梨 真一	学校教育課長
増井 直樹	教育総務課長	矢尾板 昌克	政策部政策課長
長島 正紀	教育総務課 GL		

◇ 19時00分 開会 ◇

◇座長　こんばんは。お忙しい中、皆さんお集まりいただきありがとうございます。ただいまより「南下浦地区の第3回三浦市学校教育ビジョン地域協議会」を開催いたします。

本日、宮坂委員より欠席の連絡がございましたので、ご報告申し上げます。

◇座長　早速、議事に入ります。

はじめに議案8「第2回三浦市学校教育ビジョン地域協議会（南下浦地区）会議録の承認について」を議題といたします。

会議録につきましてはすでにお手元に送付してございますが、本案修正等に関する皆さまのご意見を頂戴した上で、誤字脱字等の修正については座長一任とすることについてご承認いただきたいと思っております。

修正等のご意見があれば、この場でご発言をお願いします。

よろしいでしょうか。

(特に発言なし)

なければ、お諮りいたします。「議案8 第2回三浦市学校教育ビジョン地域協議会（南下浦地区）会議録」のとおりとすることについて、併せて、誤字脱字等の修正については座長一任とすることについてご異議ございませんか。

(「はい」の声)

ありがとうございます。ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

◇座長　続きまして、報告事項に入ります。

三浦まちづくりの会より提出されました「三浦市学校教育ビジョンに対する提案書について」事務局より報告をお願いします。

◇事務局　先日、11月12日に「三浦まちづくりの会」から三浦市学校教育ビジョンに対する提案書をいただきました。こちらの団体ですが、三浦市学校教育ビジョンに対する勉強会というものをご開催しているということで、承知をしております。

その中でいくつか不安と疑問というものが掲載されており、それに対して最終的に要望といったかたちだとは思いますが、ご提案をいただいております。一つ一つ疑問に対して事務局の考えを委員の皆さんにお知らせしたいと思います。

まず、1中学校区、1小学校で長距離通学の負担が大きいということです。安全に通学できるか非常に心配であるという疑問、不安をいただきました。こちらにつきましては事務局としても、大きな問題として捉えていることを委員の皆さんに地域協議会でご説明しています。その中で、道のりでは松輪地区から上宮田小学校で約7キロメートル、毘沙門地区からは約10キロメートル離れており、それくらいの通学距離になります。

これはバス通りで計測した通学距離です。私どもが地図上で確認したところ、大乘のバス停から旭小学校までバス通りで行くと約 9.8 キロメートル、上宮田小学校で約 9.5 キロメートルです。色々な経路がありますので、自動車が通行できる道を通ると上宮田小学校で約 5.7 キロメートル、旭小学校で約 6.7 キロメートルになります。ただ非常に通学距離が長いので、こちらの手立てについては十分に検討し、何らかの手立てを講ずるべきだと考えています。

次に、教育の質が低下する恐れがあるという記述です。一つの小学校にではなく、小学校全体で教員の数が減るためきめ細やかな教育ができなくなり、教育の質が低下する恐れがあるという不安を書かれています。こちらは小学校全体の教員の数で図れるものではないと三浦市教育委員会では考えており、少しこちらで考えるものと視点が違うかたちでの不安をお持ちであると考えています。前回は説明いたしましたが、一つの学校に勤務する教員の数は多くなると思っておりますので、こういったきめ細やかな教育ができなくなる恐れはないと三浦市教育委員会では考えています。

つづいて、1校あたりの児童数が多くなり、密になる可能性があるということです。こちらは物理的に少し大きな規模の小学校にしようと考えているため、全体からすると人数が増えることは事実だと考えています。ただし、感染症対策については今後もしっかりと行っていくことになるため、そのような状況下でも密になる環境を避けるよう十分、安全に配慮した環境を提供したいと考えています。

次に、施設分離型の小中一貫教育についてです。施設を分離して小中一貫教育を行うことは限界があり、有益性があるとはいえないと書かれています。施設分離型でも可能な一貫教育がありますし、全国的には施設分離型でも成功している事例が数多くあると三浦市教育委員会では認識しています。施設一体型が一貫教育をやりやすいということは事実ですが、施設分離型であるから有益性がないとは思っていません。教員の方々のご協力をいただくことはあるかとはございますが、小中一貫教育は子どもたちにとって良い環境になると思っておりますので、進めていく考えです。

次に、小中一貫教育は不登校に効果があるとはいえないという記述です。「中一ギャップの真実」という文部科学省のリーフレットがあり、そちらのなかで中1ギャップそのものを否定し、小中一貫教育で子どもたちをみるということは、不登校を減らす効果があるとはいえないと書かれています。こちらの文部科学省のリーフレットについては中学1年生のギャップそのものを否定するものではなく、安易に小学校から中学1年生になったからといって、不登校が始まるとか安易に捉えてはいけないと提言されたものと三浦市教育委員会では受け止めています。全国的にも三浦市でも、中学1年生になったときに不登校になってしまう子どもの人数が、多くなるというのは紛れもない事実であると捉えています。今、1中学校区、1小学校になっている初声小学校の事例では、中学1年生になった子どもから、中学校に知っている先生がいて安心した旨の声も聞いています。不登校という悲しい事実にあたる子どもたちの数を1人でも減らすことができれば、非常に意義あるものだと考えています。子どもたちが安心して学校に行ける環境を作ることに小学校の先生、中学校の先生が子どもたちを継続して見ていくことは有効であると三浦市教育委員会では捉えております。こちらについては、記述を見て三浦市教育委員会との相違があると考えています。

次に、小規模校のメリットを活かした教育についてです。こちらは今でも進めているところですが、工夫すればこちらで考えているような課題はこのままでも解決できるという記述です。前回の地域協議会でも述べましたが、今でも、社会的な体験を補うような活動は十分にさせていただいています。これ以上、三浦市全体の小学校がさらに小規模化してしまっただけでは、今と同じように工夫を継続するには難しいことが出てきてしまうと感じ、三浦市教育ビジョンを策定しました。

次に、若手教員の研修や育成体制について書かれています。こちらは三浦市教育員会、校長、教頭が努力をすれば何とかできるのではないかと、努力を怠ってはいけなと書かれています。現在でも校長先生、教頭先生には、色々な努力をしていただいています。指導、育成に十分な力を注がれております。小規模な学校では捻出できない時間も工夫し研修にあてていただいていると思っておりますので、こちらは事実とは相違する記述であると考えています。

次に、子育てをするなら三浦市でとなる取り組みについてです。小規模校のメリットを最大限に活かすことで子育てをするなら三浦市でとなる取り組みなどが必要であると書かれています。確かにそういった見方もあるかと思えます。ただし今回、目指す学校の体制では小規模校のメリットを活かしたうえで、数のメリットも享受できるような学校規模にしていきたいということであり、魅力ある学校づくりをして子育てをするなら三浦市でとなるような取り組みに寄与していきたいと考えています。

次に、教職員の人数を増やして 20 人程度の学級を実現すべきだということですが、小規模での学習や体験が部分的に有意義であります。また三浦市学校教育ビジョンが目指す体制になった場合、概ね 1 学級の人数は 30 人程度、少し超えることもあります。今、文部科学省では第 2 学年以上は 40 人学級になっており、現在の感染症の状況を踏まえて 30 人にするかの検討を始めているところです。三浦市学校教育ビジョンが目指す学校体制にした場合に、文部科学省が現在検討している 30 人前後の学級になるということ、そういった意味でも適正な規模といえるぐらいの人数になるのではないかと、三浦市教育委員会では考えています。20 人の方が良い場合も確かにありますが、その場合には三浦市の市費で教職員の人数を増やして配置することが必要になります。その場合には、費用は莫大のものになり、そこまでの財力は小さな自治体として持ち得ていないと感じているところです。

次に、教育予算を増額し、学校施設を改善すべきだ、経費削減のために学校統合すべきではないというお話です。こちらは再三再四、三浦市教育委員会からお伝えしておりますが、経費を削減するために学校を統合する考えはございません。こちらの記述は約 300 万円の経費の削減になると、私からお話したこともありますが、削減ができると申ししていませんし、三崎中学校と上原中学校の統合時に削減できた金額は約 300 万円でした。今、試算しても 300 万円程度になるだろうとお話ししました。その後にあります、交付税が減少してしまうので財政的なメリットはないという話も、三浦市教育委員会側からしたものです。少し曲解して捉えられてしまっているような感覚を持ちます。

その次に書いてある、教育予算を増額し学校施設を改善すべきだという記述については、ごもつともだと思っております。私どもも教育予算をできるだけ増やして、学校施設を改善するよう努力していきます。そちらは応援のメッセージだと受け止めておりま

す。

つづいて、優しいまちづくりと地域の活力、防災についてです。「小学校が地域になくなり、子どもたちが徒歩で通えないということになると、子育て世代の市外への転出が予測される」とございます。個々の考えによっては、そういった方もいられることは否定できないと考えています。前回の地域協議会で統合後の学校を小規模校の良さを活かした学校にすることで三浦市の教育のアピールになると委員からお話があったところでございます。そういったより良い学校にしていくことで、子育てに優しいまちづくりに寄与していきたいという考えでございます。

次に「地域の活力が衰退してしまう、小学校がなくなってしまうとその地域の活力が衰退してしまう」という記述がございます。確かに以前は各家庭にだいたい1人くらい小学生いて、何世代も家族と一緒に暮らし、小学生が身近な存在であった時代もあったかと思えます。今ではそのように小学校に通っている家庭もすごく少なくなり、悲しいですが昔のようにどこの家庭も小学校と繋がっている状態ではなくなってきました。そのような状況下でも地域と小学校は非常に密接な関係があり、応援をいただいていると思っています。ただ、小学校の本分としては適切な学習環境を子どもたちに提供することだと考えておりますので、そちらが今後、疎かになってしまう状況では地域のコミュニティのために学校を存続させることは、少し視点が違うのかなというように考えています。ただ、残った学校施設の活用ということは別の視点であり、そういったものを活用しながら地域に寄与していく術はあると考えています。

最後に、「地域に指定避難場所がなくなってしまう」についてです。こちらはまだ廃校になった学校を指定避難所として使用しないということは、まだ決めておりません。今後、三浦市としてどうあるべきか考え、結論を出していきます。こちらも学校の本分を考えたらうえて今、指定避難所に指定されているため、その場所には学校がなければならぬということではないと考えています。疑問点、不安点は以上の記載がございました。

◇座長 今、報告をいただきました。まちづくりの会の提案に関して、ご質問・ご意見がございましたら、この場でいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

◇委員 このような会といっても、大学講師を招いたりしている団体の方々だと思えますので、それも一つの意見だと思えます。三浦市教育委員会として否定する考えを示していますから、このような意見があると留めておくことで良いと思えます。今後の統合に向けたプロジェクトに対する意見という材料にして考えれば良いのではないかと思います。このことについて、この場で一つ一つ賛否を述べて、相手に回答するわけではないと思えます。

◇委員 三浦市教育委員会はこの提案書に関する回答などはしましたか。

◇事務局 この提案書につきましては回答などを求められていないため、文書として回答するなどのことは今のところ予定していません。

◇座長 地域のご意見の一つとして受け止めながら、こういった疑問点をもっていたらということに、ある程度、地域協議会として回答ができるように進めていくのも大切なことだと思っています。意見として念頭におきながら、今後の地域協議会を進めていくという理解で、このことに関しては終わらせてよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

◇座長 ありがとうございます。それでは、意見交換に入ります。

前回の地域協議会で将来を見通したときに、統合していくことは止むを得ないというご意見をいただいたところです。実際、我が子や孫が入学しようとしたとき、学校がこのような状態になっていくということが、近い将来、見えているときに、そのときになってから慌てて統合すれば良かったという話になったら困ります。その部分を見通して、我々としては統合するのでも止むを得ないという方向で話を進めていくということで前回、一致したところだと思います。

資料2が配られております。こちらは三浦市教育委員会で用意をしていただいたものです。例えば、令和6年度に統合した初年度のときの各小学校の学年ごとの児童数、学級数の状態が示されています。密になるといわれているところもありますが、例えば令和6年度の第5学年をみたときに上宮田小学校で38人です。今の制度ですと40人学級をとということが言われています。そうすると上宮田小学校では38人で1クラスになってしまいます。それに対して、剣崎小学校は0人、南下浦小学校は10人であり、小学校ごとに違いが出てきます。これを統合した場合、67人の規模になり、2クラスになりますので33人、34人というようなクラス編成になります。そうすれば、上宮田小学校の密の部分は解消されるだろうと思っています。10人、19人規模というところがある程度、平均化された状態のクラス編成になり、教育が進められていくという見取り方がこの表から可能になるのではないかと思います。したがって、令和6年度において、第1学年から第6学年まで30人前後の1クラスの人数で3クラス存在するという状況の学校ができあがっていくイメージができると思います。この資料はある意味、まちづくりの会の方が抱いていた疑問にある程度、答えられるようなものだと思います。また30人学級が導入された場合、67人のところは3クラスになると予測され、22人、23人のクラスが3クラスできることになります。そのような部分ではクラス替えや、あるいは色々な先生方が子どもたちに関わっていくことによる人脈の広がりなどの期待を読み取ることができると思っています。具体的なデータがあった方がどのような学校になるかのイメージが湧く気がします。この状態が令和6年度、7年度、8年度と横ばい、微減のような状況で、学校の運営が続いていく資料になります。徐々に具体的な話をしていかないとイメージが湧いていかないと思います。是非、このような資料があったら良いというものがございましたら、三浦市教育委員会に用意をしてもらい、具体的にみることでできたら有益だと思います。委員のお話のなかでも具体的にどこの小学校にするか、ある程度決まっていかないと具体的な部分のイメージが湧かないと思いますので、そのあたりの話をしていきたいと思っています。そのために判断の根拠になるような資料を委員

の皆さんのご意見をもとに、三浦市教育委員会に用意をしてもらうことになるかと思
います。

何か必要な資料はありますか。

◇委員 現時点の各学校の規模が把握できれば良いと思います。教室を増やすことは
できませんが。

◇座長 各学校の教室の数ですね。

◇委員 そうです。教室の数が把握できれば、この学校に移せるか否かが分かると思
います。

◇事務局 施設のことだと思います。こちらとしても想定しているものがございまして、
学校の面積、建物の面積、校庭の面積、教室数、体育館の面積、エアコンの設置数など
については各学校を比較できるような資料を作成できると思います。それから今の委員
のご発言で、学校の教室数を増やすことは難しいのではないかというお話をいただきま
した。確かに、予算的には大きな金額が掛かってしまいますが、現時点で委員の皆さん
にご検討いただく中では、仮に教室数が少ない学校に統合したとしても、増改築等は不
可能であるという考えは抱かなくて大丈夫です。必要があれば増改築もできるとして検
討していただければと考えています。施設が不足しているから、候補から外すなどとい
う足かせはないものとしていただければと思います。

◇委員 もう一つよろしいですか。児童数は 500 人弱くらいで、1 人当たりの校庭の面
積というものは決まっているのでしょうか。1 人何平方なければならぬとかです。

◇事務局 学校の施設基準というものがございまして、決まっていると思います。

◇委員 それについて、どこの学校でも当てはまるということでしょうか。増築をして
しまうと運動場が縮小し、他のことができなくなってしまうことも考慮して、物事を進
めることができるのでしょうか。

◇事務局 はい。それらのことに対しても詳らかにしてお示ししたいと思います。

◇委員 どこの小学校になるか決定はしていませんが、実際の登校距離、登校に要する
時間、交通費など、全ての学校のデータがあれば良いと思います。

◇事務局 通学について今、事務局で考えていることは通学に用いる、学校周辺の環境
や最寄りのバス停からの距離、周辺の道路事情、自動車での送り迎えを想定、経路によ
り違いますがバスの費用、一番の遠方から学校までの道のりの想定などはお示しすべ
きと考えています。

◇委員 それに追加で、初声小学校に一番、遠方から通っている家庭から学校までの距離を比較のために示した方が良いと思います。

◇事務局 分かりました。

◇座長 今のお話では、剣崎小学校、南下浦小学校、上宮田小学校、旭小学校のどこでも地域協議会の意見として、例えば剣崎小学校は6クラスしか普通教室がなく、18学級を収めることできないため候補から除外するという考え方をする必要はないという理解で全員の共通認識でよろしいですか。つまり、4校が共通のベースにあるということで4校をフラットに考えてくということをもう一度、ここで確認をしたいと思います。他に考察するうえで必要な資料はありますか。

◇事務局 すみません。本日、お示ししている資料2で訂正が何点かあります。上から順番に令和7年度です。旭小学校の1年生37人で1クラスになっていますが、1年生は35人クラスであり、2クラスとなります。したがって合計、6クラスから7クラスとなります。次は同じく、令和7年度の統合小学校の3年生の部分です。80人で3クラスとお示ししていますが、2年生以上は40人クラスとなりますので、この数字ですと2クラスになります。それに付随しまして合計が17クラスから16クラスとなります。最後に令和8年度の統合小学校の4年生、80人が3クラスとなっていますが2クラスとなり、合計16クラスになります。

ここで、令和8年度の旭小学校の2年生が37人で2クラスと示しましたが本来、国の基準ですと2年生以上は40人クラスです。しかし、神奈川県では2年生は現在35人で1クラスというかたちで、加配が検討され付くことになり、ここでは2クラスと示しています。

◇事務局 同じく令和6年度の統合小学校の2年生の部分も、神奈川県を加配により35人で基準を設けておりますので3クラスとさせていただいております。国の基準ですと40人学級で2クラスということになります。

◇座長 ありがとうございます。40人だと密ですね。令和6年度の2年生、令和7年度3年生がそのように見受けられます。

◇委員 密というのは現在、密というだけであって令和8年度に40人というのは確かに密ですが、問題があるのでしょうか。

◇座長 新型コロナウイルスか否かのことだけではないと思います。

◇委員 予定だと来年以降は新型コロナウイルスが収束するといわれています。令和8年となれば先のことですので、40人は密か密ではないかといわれれば密ですが。

◇座長 一見、そのように見えてしまいますね。

◇委員 もう一点、よろしいですか。どこの学校になるか分かりませんが、例えば南下浦中学校近辺には活断層が走っている話もあります。そのことも含めて、仮に南下浦小学校に統合したとすれば、南下浦小学校でも良いということですか。

◇事務局 活断層については、今後の協議でお話ししようと思っていました。現在、南下浦中学校、小学校の下にある活断層は2万年程、動いていません。そして、その活断層を辿っていくと引橋の消防署の下にも走っています。消防署を建築する際、問題があるのか否か非常に綿密に考えたところ、その場合には建築をする上で危険が考えられないため、普通の建築物を建てても良いという見解が出ています。そういった意味で活断層は存在しますが、公共施設を建てるのに適さない土地ではないという判断ができると考えています。

◇委員 引橋の消防署を建てたときには、その検査をしたということですが、同じ活断層だから南下浦小学校は同じ状況という話なのか、仮に南下浦小学校に統合するときも引橋の消防署を建てたときの検査をするのですか。

◇事務局 検査ではなく、活断層は一連になっており、その活断層に対する見解が出たということです。

◇委員 活断層に関して大丈夫であるという認識ですね。

◇事務局 そのような認識で考えています。

◇委員 そのことに対して異議があります。例えば県営団地の下には、南下浦中学校から来ている活断層があり、武山活断層まで繋がっているというお話があります。県営団地の端の棟では地震が来ても揺れ方も違い、下水管などの埋設物が破損するなどの被害が出ています。活断層が活動しているか否かのみで判断するのは危険であり、同じ団地でも場所により実際問題として違いがあるわけですから、引橋の消防署の見解がどうであれ、南下浦小学校も同じではないと思います。

それをいってしまえば、条件が絞られてしまいますが、地震はいつどこで発生するか分からないし、津波などの自然災害を考慮しなければなりません。今は新型コロナウイルスの問題に対して世間の関心が高いですが、本来、今後30年間に地震の発生確率が高いと騒がれているため、子どもたちが怖い思いをして避難しなくていいように条件的にある程度、津波を避けることができる点も軸に考えていくべきです。

◇委員 それも一つの考えに入れなくてははいけませんね。考慮した結果、仮に南下浦小学校になったらそれはそれです。何も考えずに統合する小学校を考えるのは良いことで

はありません。

◇委員 今、活断層というお話が出ました。校地を残したとして、何が決め手になるかという、いくつか視点があるわけです。まず施設、面積という話になりそれらの点については各学校をフラットにして検討するということでした。次に交通の便という視点が出てきました。最後に活断層や海拔など、学校の環境面について話題に出てきました。他に土砂災害警戒区域など環境面に関することもあります。この3つの他に何か視点になるようなことがもしあったらこの場で発言いただき、次回の協議会で資料を一覧表ではないですが、それをもとに協議をしていけばと思うのですが。いかがでしょう。他に何が条件として考えられるか、施設、交通の便、環境ですか。

◇座長 ありがとうございます。スケジュール的には一つずつ小学校をどこにするかということです。

◇委員 先程の話で、剣崎小学校が施設の増設も可能であり、各学校の施設が同じ条件のもとで議論するため、各学校のリスク面について全て出すことですね。その中でどこにいてもリスクはありますが、最終的にリスクが一番低い学校が今後の話の流れになっていくのではないのでしょうか。

◇座長 そのために、どのような資料があると我々が検討しやすいか、客観的、科学的なデータが必要だと思えますね。このようなものを出してもらえると、次回以降の地域協議が進行しやすいと思いますが、いかがでしょう。子どもたちが安心、安全で学べる環境を考えていったときに、どういったところがということでしょうか。

◇委員 確認ですが、得てして統廃合になったとき、この学校には伝統があるなど歴史的な観点から、廃校にしないでほしいという要望が地域から出てくることはあります。今回、そのような観点はどうでしょうか。

◇委員 この前、保育園、幼稚園の地域説明会かなにかで、名向小学校が廃校になると聞いたという声がありました。我々、地域協議会の中では、そのようなことは決定していないのに、世間では話題になっています。また、三浦市学校教育ビジョンがあることは何となく知っているけど、結局、うやむやになるだろうと思われていました。しかし、このプロジェクトが動き始めて、どこそこの小学校を存続させる署名活動などを行うので、協力を要請する旨の連絡が来ました。私は地域協議会の委員であるため、片方だけの考えの立場に立つことはできません。

三崎地区では地域性が強かったため、旧三崎中学校と旧上原中学校が統合する際、普通なら施設が新しい学校に円滑になると思いきや、学校名のこだわりが出てきました。ただ、南下浦地区では地域的にこだわりというのは客観的には感じませんが、皆さんはいかがでしょう。

地元で長く住んでいる住民の方の意見で、自身の場所の名称を残してほしいなどの要

望が出たとき、どのような考えで進めていくのか、統合に向けた一つの不安材料であります。

◇委員 本来、このことで優劣をつけるものではないと考えます。学校の歴史が長い、短い関係なく、学校は学校でそれぞれ大切です。

◇委員 そうしたら、地域でトラブルにならないよう統合した小学校に新名称を付けるのもいいですね。

◇委員 それは後々の話になってきますね。そのため、学校ではなく校地と発言しました。学校というと名称などのイメージが独り歩きしてしまうので。

◇座長 いっそのこと、既存4校の施設ではない場所を確保し、新築校にしてしまう考えは三浦市教育委員会でありますか。4校の小学校でトラブルにならないように。

◇事務局 南下浦地区を取ってみましても、そのようなまとまった土地はございません。どこかの場所を造成して学校を作り直すための資力は正直、三浦市としては持ち合わせていません。既存の学校施設について増改築は可能であると述べさせていただきますが、新たな土地を購入し学校を新築することまでは考えていません。

◇座長 既存の4つの校地の中から、どこにするか話を進めていかなければならないということですね。

◇委員 よろしいですか。増改築ということでも驚いていますが、増改築以外のことで発生しうる要素はありますか。例えば、これまで通学に関して頻繁に話題になりました。このことについて、三浦市教育委員会では何か考えがあればお聞かせ下さい。

◇事務局 細かな路線バスの活用やスクールバスを用意するなど手法は様々あると思っています。まだまだ基礎の段階ですが検討はしています。そのような状況下で、小学生が安全に通学できるという安全確保については目指す体制を作るなかでは、一番に解決しなければならないことだと思っております。施設のこともありますが、そういった視点を持って三浦市教育委員会は取り組んでいきます。

◇委員 そうであるならば、なぜ初声小学校はバスを運行させないのでしょうか。

◇事務局 今後、南下浦地区と三崎地区の話が進み、同じように初声地区でも考えていくべきだと思っています。

◇委員 それでは初声地区でもバスを運行させると、三浦市教育委員会は考えているということでしょうか。

◇事務局 議論が進む中でそのようになってくれば、同じような土俵で考えていくと思います。

◇委員 バスを運行してもらえるとということですね。

◇事務局 先程、委員から遠距離通学に関わる資料の用意をご提案いただきました。事務局として、対応していきます。そして、三崎地区と南下浦地区の校地が決まり、その場所への通学手段、支援策と言ったら不適切かもしれませんが、それらも決まっていたときに、3つの地区で公平性を欠くような状況になることは望ましくないと思っています。その場合に初声地区も現時点で必ず何々をしますとは申し上げられませんが、公平な対応をしていきたいと考えています。

◇委員 逆に、モデルケースとして初声小学校、初声中学校が1学区、1小学校、1中学校になっているわけです。よって、現時点で初声小学校の一番遠方の家庭がどの付近から通っているか、距離はどれくらいか調べ、試行してみたらどうでしょうか。例えば費用がかかりますが、マイクロバスの運行、京浜急行バスを利用する支援をして、出てきた問題点を示したうえで、三崎地区、南下浦地区に活かしていけば良いのではないのでしょうか。子どもがバスを乗り降りするときの不安、不便なことなどが分かってきます。一斉に実施する考えは理解できますが、すでに初声地区では1小学校、1中学校になっているわけで、モデルケースとして得た情報を他の地区で示せば、検討に寄与できると思います。三浦市は予算がないため実現できないのかもしれませんが、それを試行するのも一つの手段だと思います。

◇事務局 そのようなご意見があることは受け止めさせていただきます。恐らく三崎地区と南下浦地区で、それぞれの小学校の統合とそれに伴う通学の方法を決めることがきっかけとなり、初声地区の初声小学校の遠距離通学に対する三浦市教育委員会の対応もできるのではないかと思います。中々、現状で先行して初声地区の遠距離通学の解消というのは困難です。先行させる方向からもあるというご意見は承りました。

◇委員 話がそれますが、私が言っているのは遠距離通学の際、個人が公共交通機関を使うか自家用車で送迎する話ではありません。この場所に決まったから、通学の対策を決めるのではなく、今、保護者が関心を抱いているのは遠距離通学になった場合、三浦市としてどこまでサポートしてくれるかが一番気になることだと思います。ですから、三浦市がここまでは何々をしますということを具体的に決定していただければ、そこからは各保護者の判断で統合したときにバスや自家用車などの通学方法を選択すれば良いことです。保護者は通学面のことが一番、不安なことだと思うので、三浦市が交通手段について案を示してほしいと思います。

◇座長 初声地区も含め三浦市全体を考えることは大切なことですが、南下浦地区で具

体的に例えば、剣崎小学校に統合されたとき、旭小学校に通う児童はどのような通学手段があるかなど一体となって考えていくべきだと思います。具体的なことが出ないと、三浦市教育委員会としても全てのパターンを示すことは難しく、細かな手続きなどを含め、見解が出しにくいと思います。

◇委員　しかし、今の小学生が要している平均の通学距離を出し、何キロメートル以上からはバス通学を認め、それに対して三浦市は補助を出しますと決めるのも一つの案ではないでしょうか。

◇事務局　小学生の遠距離通学では4キロメートルが一つの基準になっています。

◇委員　それはあくまでも基準ですよ。個々の子どもによっては4キロメートルを歩くことが厳しい子もいます。

◇委員　先に統合後の学校を決定し、通学面の対策をどうするのか考え、例えば三浦市、三浦市教育委員会がマイクロバスを運行する、京浜急行バスを借り上げるなど、それらを実現するために、保護者の負担がどれくらい発生するか方向性を提示することです。そうすれば、もう少し議論が進むと思います。

◇座長　そこまでのことが出た方が、4校の小学校をフラットに比較しやすいというご意見ですね。

◇事務局　そういったアプローチで話を進めることも想像はできます。しかし、皆さんに検討していただく立場になっていただいた経緯があり、先ほどのご意見の進め方では難しいと思われたため、現在の地域協議会で議論を進めていくことに至ったわけです。統合するための条件を全て出し切れた場合、おのずと結果は決まってしまうことが懸念されます。他方、数値化できない要素も含め総合的にご検討いただいたうえで、統合後の学校を決めた場合、解決しなければならない課題を明らかにし、三浦市、三浦市教育委員会、地域協議会でご協議いただくなど対応するアプローチを念頭にしております。

◇座長　つまり、皆さんの関心がある通学手段を話の軸にするのではなく、どのようにすれば魅力的な学校になるのか考え、4校の中から選定します。そして、決定した学校に対して、三浦市から必要な通学の支援は何か、意見をくみ取るかたちで進めてもらいたいということだと理解しました。安全面などの条件も一旦置き、先程、委員が言われた要素を検討し統合する小学校を決めます。決めた学校には何が必要か、また、最も心配している通学面について、話をしていく流れで進めたほうが良いと認識しました。

◇委員　もう一つ資料について、現在の三崎中学校が統合されるまでのプロセスが分かったら教えてください。おそらく、中学校を統合したときも通学面や目指す学校像など同じような意見が出たと思います。現に中学校が統合したので、どのような経緯があったか、

手順を踏んだかのモデルケースとして参考になります。当時、私たちは統合するかもしれない、通学費が出ないかもしれないなどの話しか聞いていませんし。

◇座長 それについては提示できそうですね。

◇事務局 はい。次回の地域協議会で用意したいと思います。

◇座長 それでは、次回以降の地域協議会では、各学校に統合したときに想定されるメリット、デメリットを一つずつ話し合い、総合的に4校のうちの1校に絞っていく方向でよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

◇委員 最後に一つだけよろしいですか。前回の地域協議会で話に出た、小規模校の良い点、悪い点の改善の文言は決定しましたか。今回、資料が添付されていませんでしたので。

◇事務局 資料の修正のことですね。

◇座長 では、その件も次回までに必ず用意してください。

次回の南下浦地区の地域協議会では、剣崎小学校から順に統合した際にできること、困難なことなど、具体的に話をしていきましょう。同時に三浦市教育委員会から資料が配布されますので、それを加味しながら話を進めていく流れでよろしいですか。

(「はい」の声)

◇座長 それでは意見交換についてはここまでとします。

つづきまして事務連絡を事務局からお願いいたします。

◇事務局 次回の地域協議会は事前にお伝えしているとおり12月18日(金)19時から1時間程度を予定しております。場所も同じく南下浦市民センター会議室です。

別件で三浦市教育ビジョンについて説明会を開催していますが中々、市民の理解が進んでいないことから、三崎地区の地域協議会で広報にもっと力を入れた方が良く、ご意見をいただきました。そこでチラシを用意し、広報誌の「三浦市民」と共に全戸配布をする準備を進めています。少々時間を要してしまうかもしれませんが、なるべく早く配りたいと思っています。次回の地域協議会でこの件に関してもご報告ができればと思います。

◇委員 チラシの内容はすでに決まっていますか。

◇事務局　いいえ、検討中です。

◇委員　もしよろしければ、三浦市学校教育ビジョンに反対意見も多くありますので、そのことに対するQ&Aなどの項目も入れたらどうでしょう。

◇事務局　はい。入れるつもりです。

◇座長　それでは第3回三浦市学校教育ビジョン地域協議会を閉会いたします。皆さんありがとうございました。

—————◇ 20時15分 閉会 ◇—————